

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 27 年度第 2 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 27 年 8 月 3 日(月) 10：00 から 12：00 まで
- II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 参加者：岩井委員長、片岡委員、杉山委員、小川委員、藤本委員、森本アドバイザー
ニッセイコム、富士通マーケティング
事務局：井端事務局長、野本、藤江

IV. 検討事項

今年度は、「学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方」について、「1. 授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点」、「2. 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組み」、「3. 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減のための教学マネジメント対策」、「4. 教職員の意識変革を推進する取り組みの留意点」の 4 項目について研究することになっている。今回は、「1. 授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点」を中心に以下のような検討を進めた。

授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点に関する意見

- ① ポートフォリオで授業デザインや授業マネジメントの振り返りを行うには、カリキュラムマップやカリキュラムツリーをもとに学士力に求められる能力が明確化され、シラバスの中で到達目標が設定されていることが前提として必要である。
- ② シラバスの中に授業でどのような能力を身につけさせるか書き込むことすらしない状況では、ポートフォリオ活用の有効性も高まらないのではないかという気がする。
- ③ 授業評価アンケートは、授業をどのように改善するか振り返るための手段である。また、ティーチングポートフォリオも改善のための手段であるが、現状では教員が受身的に捉えており授業の有効性を評価するところまで理解されていない。
- ④ FD で達成度評価を行った時に評価が甘くなり自己満足になる場合がある。また、学科内の教員で評価した場合に授業の内容や専門性に偏りどのような効果があるのか見えていない傾向がある。
- ⑤ 医療系では、分野別の認証評価を開始し、世界基準を視野に入れ 5 大学で評価をすることになっている。現地にて学生・教員・研修員等のインタビュー含めて評価を行う。どのような項目であれば自己評価が適切にできるのか調整を始めており、他者評価や自己評価が適切にできるような仕組みを作ろうとしている。
- ⑥ 授業の有効性が卒業や進級の問題に関わってくることから、質保証への貢献のエビデンスとして教員による授業の自己評価が重要となってくる。教員が授業デザインについて自

己評価していく最終形としては、ティーチングポートフォリオのように振り返る仕組みが必要となるのではないかと。

- ⑦ 授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点について委員からポートフォリオの活用例が提示された。
- ・ 学修時間、学修行動の記録として、一週間単位での PDCA 行動履歴を記録させている。
 - ・ シラバスに掲げた「学生が達成すべき行動目標」の達成状況は、「達成度自己評価ポートフォリオ」で振り返りさせている。
 - ・ 全学共通の授業アンケートでは「学生が達成すべき行動目標」の達成度だけを記すため、その理由を記述させ振り返りを求めることにした。
 - ・ シラバスに記す科目の総合評価の割合から知識偏重の結果を見直し、配分を点検することになっている。
 - ・ 授業アンケートの集計結果は、経年変化を含めて公表している。
 - ・ ティーチングポートフォリオは、「授業点検シート」、「授業アンケートに対する分析と次年度対応方法」を作成しているが、人事考課には利用せず、自己点検のツールにしている。
 - ・ 課題としては、シラバスに学修達成目標や成績判断の記述をしているが、まだ内容が十分でない。

V. 今後の検討の進め方について

次回の委員会は、9月14日(月)14:00から開催を予定することにした。

今回は、「1. 授業の有効性を点検・評価する学修ポートフォリオ活用の留意点」の見直しと「3. 学修ポートフォリオによる学生の負荷軽減のための教学マネジメント対策」について検討を進めることにした。

役割分担としては、カリキュラムマップやカリキュラムツリーをもとに学士力に求められる能力の明確化とシラバスとの連携を前提とした自己点検の仕組みについて委員長が補足するとともに、学修ポートフォリオ以外で教員が自己点検する資料（ティーチングポートフォリオ含む）を片岡委員、杉山委員、小川委員、森本アドバイザーがそれぞれ持ちより検討することになっている。